

2011年度 シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金 成果報告書  
**SIGGRAPH2011におけるSonalShooterのポスター発表**

総合政策学部3年  
中垣 拳

## 1. 概要

世界最高峰のコンピュータグラフィックスの展示会、SIGGRAPHにおいてSonalShooterの研究成果が認められ、2011年8月7日から11日までカナダ・バンクーバーにてポスター発表を行った。研究で得た知見を世界に広く知らせるとともに、世界の研究者と議論し、フィードバックを得ることで今後の研究のさらなる発展に役立てることが目的である。

## 2. SonalShooterについて

近年、実世界にデジタル情報を付加する拡張現実感技術が研究領域のみでなく、日常生活にも普及しようとしている。そこでは視覚情報に加え、聴覚情報を付加する空間拡張システムが注目されてきている。本研究では、ユーザにヘッドホンなどの装着を強いることなく、対象物自体から音が鳴っているかのように感じる付加情報提示手法SonalShooterを提案する。具体的には、本システムは、向けた方向にある実物体を画像処理で認識し、そこに指向性スピーカの特徴を活かして適した音声情報を届けるデバイスである。

参考：[http://www.xlab.sfc.keio.ac.jp/?page\\_id=321](http://www.xlab.sfc.keio.ac.jp/?page_id=321)

## 3. ポスター発表について

会期の5日間、割り当てられたパネルにポスターを展示し、誰でも見るようになるようになっていた。そのうち9日と10日に関しては12時15分から13時15分までは、ポスター前に立ち、説明を行うことが義務づけられていた。今回は説明と同時に簡単なデモも行うことで、実際にデバイスに触れてもらいながら議論を行った。(図1)



図1. 展示の様子

#### 4. フィードバック

「おもしろいアイデアだ。」「将来性がある。」など、多数の肯定的な意見をいただいた。実際にデモを行うことで、驚いたように音声に耳を傾ける人が多く見られ、具体的な議論まで発展させることができた。(図2,3) 将来的なアプリケーションについても、議論が盛り上がり、特に広告への応用コンセプトについてたくさんの共感を得た。一方で、周りが騒がしいこともあって、指向性スピーカの音質・音量の限界から、音声聞き取りにくい場面もあった。ハードウェアの改善が必要とされている。

また、指向性スピーカを用いた別の研究をされている方とも活発な議論ができた。その方は指向性スピーカによる音の反射に関して知見が深く、今後の研究の発展に役立つようなアドバイスをいただいた。論文も紹介いただいたので、参考にしていきたい。



図2. デモの様子



図3. 議論の様子

#### 5. まとめ

今回SIGGRAPH2011のポスター発表に参加し、SonalShooterの研究成果を世界に向けて発表することができた。本研究の将来的な方向に関しても、たくさんの議論によって明確化させることができた。またEmerging Technologiesなどにおいて世界の最先端技術などを学ぶことで、今後の研究に対するモチベーションにもつながった。

#### 【謝辞】

今回の発表は、2011年度湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワーク基金」の支援によって行われた。